

一からわかる ドン・ボスコ講座 5

カロツソ神父の死
カステルヌオヴォの学校に行く

家庭の緊張2

dvd4

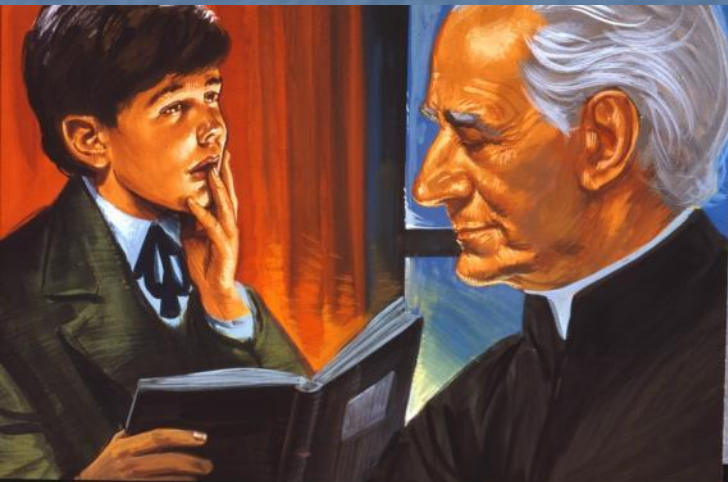
兄アントニオ（異母兄弟、若くして実母を亡くす）は畑仕事に専念。



DBは必死に働きながら勉強するが、兄は納得せず。決定的口論。 P45-46



カロツソ神父と暮らし始める。つかの間の最高の幸福。 p47 dvd5



カロツソ神父とジョバンニ・ボスコ

— 教育者と子どもの理想的関係

教育者

自分から近づいていき、子どもの必要に応えるため自分を差し出す。

子ども

その人を信頼する。「わたしは同神父の手にまったく身をゆだねました。自分のことはすべて打ち明けました」。すすめにすべて従う。「魂の忠実な友」。

教育者

子どもの難しい状況に、共に苦しみ、解決を与えようとする。「君は私を信じてくれた。わたしはそれにこたえたい」

子ども

「わたしは父親以上に彼を愛し、彼のために祈り、万事につけ喜んで奉仕しました。いのちを捨てることさえ、最高の幸せでした」。

襲い掛かる不幸 ～カロツソ師の死～

Dvd6



1830年11月：脳卒中で
倒れる。p48

2日後に死亡。その際、
DBに金庫の鍵を託す。

「私の希望は消えうせた」。

「寝ても覚めても師への思いにつきまとわれる。」

p51

健康のため、おじの所に行く。

事態の好転 p52-53

1.アントニオとの遺産の分割 → 自由に勉強可。



カステルヌオヴォの公立学校に行く(15歳)。

片道5キロ、2往復



仕立て屋に下宿

学校での苦労: 4, 5歳
年下と一緒に。みすぼらしい
身なりを馬鹿にされる。 Dvd2.4



1831年(16歳): キエリの中学に。年内3回進級。 Dvd2.5



カステルヌオボでの体験

決して無駄な時間ではなかった。

- 初めて正式な学校教育を受けられた。
- 地元の司祭たちの反面教師 — 若者たちに対する正反対のアプローチの必要性に気づく
- 余暇の時間に、役立つ趣味を身につける — 音楽(声楽、オルガン)、裁縫、鍛冶屋の見習い